



～ふる里の水と土に感謝して～

## 第20回 大師の里・彦左衛門の

## あじさいまつり 開催

多気町、水土里ネット立梅用水、多気町勢和地域資源保全活用協議会が協賛

去る6月12日(日)にあじさいが咲き誇る多気郡多気町丹生のふれあいの森を中心に「第20回大師の里・彦左衛門のあじさいまつり」が開催された。

「ふるさとの水と土に感謝して」をテーマに平成9年にスタートしたこのイベントも20回目となり、併せて多気町合併10周年記念の節目となり盛大に行われた。

時折り小雨の降るあいにくの天候であったが、町内外から10,000人余りの来場者があり、あじさいの咲き乱れる散策道は老若男女問わず終日賑わっていた。

オープニングセレモニーに続いて、あじさい姫の紹介、恒例の田んぼの綱引き、田んぼのコンサートなどがいろいろ催しが繰り広げられた。

広い会場には70余りの出展ブースが設けられ、来場者は各ブースに立ち寄りながら、散策を楽しんでいた。特に途中手掘りのノミ跡が残るトンネルを抜ける立梅用水路の「ボート下り」では、順番待ちの長蛇の列ができ、大人気であった。

我が水土里ネットみえも会場入口付近にブースを設け、会場内の散策道沿いに3ヶ所のポイント場所を設け、そこで各自スタンプを押し、本会の愛称「みどりねっとみえ」を完成させることで、本会愛称を啓発する「あじさいの小径スタンプラリー」を行った。850人余りの家族連れやカップルが参加し、汗を滲ませ、咲き誇った色の違ったあじさいを眺めながら散策を楽しみ、指定されたポイント場所を回り、最後に本ブースに戻り、答え合わせをし、声に出して「みどりねっとみえ」と読んでもらい「水土里ネットみえ」の愛称を覚えてもらった。

その後、スタンプラリーに参加した者にはもれなく花のポットがプレゼントされ、眼を凝らしながらポットを選び、満足そうに



盛況な水土里ネットみえのブース



花ポットを選ぶ参加者

ブースを後にした。

また、小学生以下の子どもたちには、枚数に限りがあったため先着順で「田んぼの生きもの調査」の下敷きをプレゼントした。思わぬプレゼントを得た子どもたちは破顔一笑であった。

また、「田んぼの綱引き大会」では参加したチームの士気を高めようと本年度も引き続き本会より優勝チームから3位までのチームに副賞を準備し、栄誉を称えた。

試合は、海外からのチームも含め20チームが戦いに臨み、大勢の観客が見守るなか、全身泥だらけになりながら熱戦が繰り広げられ、大いに盛り上がっていた。

我が水土里ネットみえも去年は4位に入賞したため、今年はさらに上位を狙おうとの強い意気込みでもと戦いに臨んだ。しかし、対戦チームに恵まれず、1回戦を突破したもののベスト4を狙う2回戦では今回優勝の栄冠を手にした「多気町消防団」に力の差を見せられ完敗したが、観客からは惜しめない拍手で健闘を称えられていた。



綱引きで奮闘する我が水土里ネットみえ



スタンプを押し  
スタンプラリー参加者